

街道歳時記

～春夏秋冬 街道あるき～

地元の人々により代々受け継がれてきた歴史ある祭事や、旅人の目を楽しませる草木花が、江戸当時の街道の趣を感じさせてくれます。ここでは宿場や近隣のお祭り、花の見頃、旬の食べ物などを紹介します。街道歩きの日程プランを立てる際にご利用ください。

🌸【春】…3～5月 🌊【夏】…6～8月 🍁【秋】…9月～11月 ❄️【冬】…12月～2月

新居宿



【その他の祭り】
🌸 湊神社祭礼 (湊神社 10月)

うなぎ
浜名湖うなぎの特徴は、ふっくらとしていながら身は締まり、脂の乗りがよいこと。浜名湖の温暖な気候と地下天然水はうなぎにとって理想的な環境である。浜名湖はうなぎ養殖の発祥の地とされる。明治24年(1891)に新居の原田仙右衛門が7haの池でうなぎ養殖をはじめたのが最初で、後に舞坂の服部倉治郎が事業として確立し、養殖方法を完成させた。「土用の丑」から、うなぎのシーズンは夏と思われがちだが、実はうなぎそのものの旬は冬眠の前に栄養をたっぷり蓄えた秋である。

二川宿



【その他の祭り】
🌸 二川八幡神社例大祭 (二川八幡神社 10月)
🌸 大岩神明宮例祭 (大岩神社 10月)

二川宿本陣まつり
毎年11月の第一日曜日に二川宿で開催される。平成3年(1991)に豊橋市二川宿本陣資料館の開館を記念して始められた行事。吉田(豊橋)城主で名君といわれた松平伊豆守信明の大名行列を再現する。地元小学生による鼓笛隊を先頭に、児童の手踊りや奴踊りを交えながら、殿様と一般公募の姫様をはじめとする三百名を超える人々が参加し、江戸時代の街道風俗絵巻を繰り広げる。

吉田宿



【その他の祭り】
🌸 御衣祭 (湊神明社 5月)
🌸 風祭り (菟足神社 4月)

豊橋祇園祭
毎年7月第三週の金曜日に、吉田神社とその周辺で開催される。大筒の練り込みと吉田神社での手筒花火の奉納、神前放揚が始まる。2ヶ月以上前から準備する手筒花火は、奉賛会役員や八ヶ町の青年達によって打ち上げられ、神前に捧げられる。戦国時代(永禄元年)に始まったとされ、江戸時代に本格的な花火大会として成長した。江戸時代当時から、多くの文献にその盛大な祭りの様子が描かれている。

浜松宿



【その他の祭り】
🌸 五社神社例大祭 (五社神社 5月)

浜松まつり
毎年5月3、4、5日に開催される。昼間は中田島風揚げの風揚げ合戦が、夜は市中心部の会場で御殿屋台引き回しが行われる。昼の風揚げ合戦では初子誕生を祝って揚げられる「初風」を皮切りに、百七十を超える各町の風が互いの糸を絡ませ、相手の糸を断ち切る糸切り合戦が繰り広げられる。夕方からは市中心部では明かりを灯した各町の屋台が、子どもたちの奏でるお囃子の優雅な音色と相まって幻想的に浜松の夜を彩る。

新居宿



【その他の祭り】
🌊 住吉神社例祭 (住吉神社 6月)

新居諏訪神社奉納煙火祭礼
毎年7月下旬に新居諏訪神社祭礼の奉納神事として行われる。会場は湖西市立新居小学校と新居中学校のグラウンドで、2日間で約二千本の手筒花火が出される。手筒花火は江戸時代の貞享年間(1684～1688)前より伝わるもの。ほかにも、大筒・細工花火(仕掛け花火)・綱火・揚花(打ち上げ花火)と、さまざまな花火が披露される。一気に数十本の火柱が乱れ立つ乱点火け、笛や太鼓、ほら貝が奏でる愉快なお囃子など、古式を残しながらも奔放さが際立つ。